

鳳仙

発行
桐生山鳳仙寺
桐生市梅田町一丁目五八
電話(0277)311-1177
E-mail: info@hosenji.or.jp

祠堂工事の進捗状況 —— 骨組みにとりかかる ——



基礎工事の終了後しばらく時間があきました。六月半ば桐生市の建築許可がとおり、ようやく「祠堂」の骨組みの工事が始まりました。設計図に基づき加工された材木が運び込まれ、基礎と材木を接続する「柱たて」が行われます。そして、桁・梁を取り付け骨組みの工事が始まる。と、たった一日で建物の大体の規模、全体像が見えてきました。

現在は「屋根じまい」という仮の屋根を作り、建物内の細かい枠組みを作っている状況です。雨が降る前にここまで終えれば一安心です。祠堂の完成予定が当初今年度の秋頃を予定しておりましたが工事が大幅に遅れております。それは近年、次々に問題が浮上している建物の耐震強度偽装事件以降、建築基準が厳しくなり設計

蓮は、泥の中から花を咲かせることから清らかさの象徴とされる。根を広く張り実を多くつけることから、繁栄の意味合いも持ちます。蓮は昔から仏教のシンボルとして語り継がれてきました。一説によると、蓮池の底が地獄を、水面から上が極楽を意味し、水底に根をはり水中に茎を伸ばし、そして、水面に美しい花を咲かせる蓮には、地獄と極楽が同居しているといわれます。タイ、カンボジア、ミャンマーなどの仏教国で見られる合掌の挨拶のポーズは、仏教と密接な関係を持ち、蓮のつぼみの形と言われます。紀元前二世紀頃、インド北方の王、ミリンダに

蓮の花

境内・工事現場付近は、鉄板などが敷かれ足下が悪くなっております。墓参・ご本堂参拝・工事の見学の折にはくれぐれもご注意ください。



お参りの時には
ご注意を！

で宜しくお願ひします。

大王よ、更に又蓮華は微風によっても揺れ動く如く、仏道修行者にはわずかな煩惱においても制御をなすべきでありわずかな罪過においても畏怖をみて安立すべきです。これが把握すべき蓮華の第3の徳分である。」

祠堂新築の寄付は、皆様のご協力により大変順調に進んでおります。ありがとうございます。まだの方は、一口八万円へ出来たら二口へ寄付して頂きますと、施主のお名前を彫った黒檀の先祖位牌(写真)を新築になります祠堂へ安置させて頂きます。



郵便振替
0052001032256
鳳仙寺

鳳仙寺「写経の会」

自然豊かな「鳳仙寺」で心を落ち着かせて写経を試みませんか。第三回鳳仙寺「写経の会」を開催いたします。日時 九月二十四日(月) 人数 三十五名 参加費 千円 持参品 小筆(または、筆ペンでも可) ブンチン 写経用紙(半紙)、手本、簡易硯、墨汁は用意いたします。

◇スケジュール
十三時 受付
十三時十五分 看経・瞑想
十四時二十五分 写経
十五時三十分 読経
十五時四十五分 解散
◆お申し込み/お問い合わせは：鳳仙寺へ(締め切りは九月二十二日まで)



鳳仙寺に咲く蓮の花

世の中や人の心が汚泥であつても、蓮華の如く清浄無垢であり、しかもその状態を崩さない。大王よ、これらの徳分が必要なのだ、と言ったと伝えられています。動物には悩みはありませんが、人間であれば悩みむことは自然な姿です。只、悩みの中で自分を失っている人は増えていくようです。悩み方が問題ともいえます。悩みを悩むことによつて、悩みを昇華させることもできるのです。

平成十九年度年回表	
一周忌	平成十八年
三回忌	平成十七年
七回忌	平成十三年
十三回忌	平成七年
十七回忌	平成三年
二十三回忌	昭和六十年
二十五回忌	昭和五十八年
二十七回忌	昭和五十六年
三十三回忌	昭和五十年
三十七回忌	昭和四十六年
四十三回忌	昭和四十年
四十七回忌	昭和三十六年
五十回忌	昭和三十三年
百回忌	明治四十一年

日曜・祝日の御法事お申込みはお早めにお願ひします。

鳳仙寺護持会 会計報告

寺報を利用して報告させていただきます。護持会費(鳳仙寺檀家の会費)は年額、一口三〇〇〇円となっております。院号戒名の付いている家は、一口以上のお願いとっております。

十九年度の護持会費は、四月から八月のお盆までの間に役員さんに願いし、市外の方は郵便振替にて集めております。未だの方はお盆期間中に本堂で受付けておりますので宜しくお願い致します。墓地掃除代も集金させていただきます。

〔平成18年度・鳳仙寺護持会・会計報告書〕
平成18年4月1日—平成19年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	5,241,343	本山宗費	1,034,940
H18年度護持会費	3,146,000	下水道保守管理費	80,120
銀行利息入金	1,018	郵便局払込手数料	7,261
		銀行手数料	315
		教区新年会費	30,000
		火災保険共済	46,180
		H18年度婦人会補助金	20,000
		(支出合計)	(1,218,816)
		次年度繰越金	7,169,545
合計	8,388,361	合計	8,388,361

(繰越内訳=普通預金7,169,545円)

平成19年4月29日

上記の通り、ご報告申し上げます。

鳳仙寺護持会 総代 小此木 秀夫
会計 池田 伊佐男

鳳仙寺で公演「地歌舞の世界」

鐘で始まり、鐘で終る

五月二十七日(日)、本堂中庭の池の上に設けた特設ステージで「地歌舞の世界」が公演された。「地歌舞」というのは、「踊り」であるのに対し、「上方舞」とも呼ばれ京阪地方の舞いのことで、江戸の舞踊が歌舞伎と共に発展した舞台向きの「踊り」であるのに対し、こちらは座敷で舞われたので別名「座敷舞」とも呼ばれる。



舞いを踊った方は、鳳仙寺で毎月地歌舞の教室を開いている古澤侑峯(ふるさわゆうほう)さん。古澤さんは、古澤流家元の長女として二歳の頃から舞い、

「袖の露」「古道成寺」。公演の始まりと終わりは副住職が梵鐘を鳴らした。

演目が進むにつれて日が暮れて行き、最後は夜闇に明かりを照らし幻想的な雰囲気になっていった。

最後の「古道成寺」では、清姫が恋心を打ち明けたにもかかわらず、逃

古典はもろろんさまざま異なる野とのコラボレーションにも取り組んでいる。毎年、清水寺や伊勢神宮でも公演をしているそう。

地歌と三絃は富元清英さん、尺八は、吉岡龍見さんの三名構成。プログラムは「鶴の声」。



げた僧・安珍を追って、大蛇(竜)に変身して川を渡り、鐘の中に隠れていた僧を焼き尽くすというストーリーで、怒り浸して変身。三味線の音色が激しくなり、彼女が激しく踊りくるくると回り踊りだすと、不思議なことに「風」が勢いを増して吹き乱れ思いもよらぬ舞台効果となった。

後に古澤さんが、風に吹かれて転びそうになり

おばけ寄席

鳳仙寺 地歌舞の会
九月八日(土)
本堂 午後七時
電話予約で当日精算OKです

出演者
柳家 心燭
柳家 燭丸
神田 愛山

ながらも踊ったことをお話いただいた。自然の舞台では、ホールと違い予期せぬことが起きて勉強になるとおっしゃっていました。

古くから土地に住むという土地の神様はときおりいたずらをなさる。

観音巡りのお誘い

西国三十三観音霊場巡りが始まりました。四回に分けて行いますが、途中からの参加も歓迎いたします。第一回は、第一番 西岸渡寺から始まり第五番の藤井寺までお参りしました。札所以外にも、番外として熊野三山「本宮大、速玉大、那智大社」そして西岸渡寺の宿坊に泊まり朝のお勤めをし那智の滝を見ながら熊野古道を歩き、十三観音で一番の難所といわれる横尾寺までゆつ

くりかみしめながら汗を流しました。それぞれの寺で般若心経と御詠歌をお唱えし、観音様に巡り会う札所の旅は、来年の春・秋と続きます。次回 四月二十二日、二十三日、二十四日の二泊三日を予定しております。花の季節 京都方面です。一人で多くの皆様参加して素晴らしい観音様に巡り会いましょう。



もしかしたら鳳仙寺の土地神さまも地歌舞に参加していたのかもしれない。

鳳の会
地歌舞の教室を月二回行っております。ご興味がある方は、お寺までご連絡ください。

写真は去年の寄席の様子です。



部消して、薄暗く、ろうそくの光の中マイクの音量も下がり。皆さんシーンと聴き入りました。

坐禅と朝粥の会

毎月一日(正月を除く)朝七時より八時半まで坐禅と朝粥の会を行っています。(会費無料)

御詠歌のおさそい。
毎月第二・第四木曜日 十三時
お花(池の坊)のおさそい。
毎月第一・第三木曜日 十三時三十分
申し込みは鳳仙寺まで

桐生山 鳳仙寺

一般墓地
二区画 30万円より
(1坪/3.3m)

緑の林に囲まれた落ち着いた雰囲気です。ゆったりとした南向き。お車でお参りできます。

永代供養 永代供養他 45万円

葬儀費用 通夜から葬儀、初七日までの一切
戒名・納骨式・御位牌
永代供養・墓碑書入れ
納骨堂使用管理費を含む
(年会費、入植料等は一切かかりません)
●上記は一般的な葬儀です。葬儀の内容・費用はご相談下さい。

永代供養塔

鳳仙寺ホームページアドレス <http://www.hosenshi.or.jp> E-メールアドレス info@hosenshi.or.jp